

<特徴的な活動または交付金活用事例>

○地域ぐるみの里山景観づくりに取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県 ^{ほすぐんの} 鳳珠郡能登町 ^{とちょうかしわぎ} 柏木・大田原 ^{おおたわら} ・宮地 ^{みやじ} ・鮭尾 ^{さけお} 協定			
協定面積 33.6ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 285万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	共同利用機械積立費		5%
		農道・水路・農用地の維持管理・補修等		32%
		役員報酬		13%
協定参加者	農業者73人 農業生産法人			開始:平成12年度

2. 制度取組の経緯

当地域は「春蘭の里」とも呼ばれ、豊かな里山と自然環境に恵まれた奥能登の農村地帯にあり、深緑の中に佇む黒瓦と白壁の家が創る統一的な家並みは、他の地域には見られない農村景観を形成している。

しかし、地域の過疎高齢化は著しく、本制度に第1期より加入し、農地保全に取り組んできたものの、第2期には制度内容が厳しくなったことに伴い、協定継続を断念した集落が幾つかあった。今回、制度内容が緩和されたことと、里に近い集落内の農地が良好に維持管理されていたため、柏木集落が第3期から再度制度加入し、大田原集落が新規に制度加入して、地域の4集落全てが持続的な農地保全に取り組むこととなった。

3. 取組の内容

農業生産活動の維持のための農地・農道・水路の草刈り等その他、担い手などの利用権設定や農作業受託の促進を図り、維持困難な農用地が発生した場合には集落ぐるみで引き受ける体制としている集落もある。

また、農家民宿を活用したグリーンツーリズムを実施し、修学旅行生や里山に興味深い外国人など、多くの都市住民を受け入れ、地域の活性化も図っている。近年では交流人口の拡大に伴い、地域内に荒れた農地があってはならないという認識が高まり、セイタカアワダチソウが広がってしまった山間部の棚田を、直接支払を活用して復旧し、地域全体の里山景観を地域ぐるみで保全再生していく動きになっている。



【 地域の里山景観 】



【 グリーンツーリズムの実施 】

[集落の将来像]

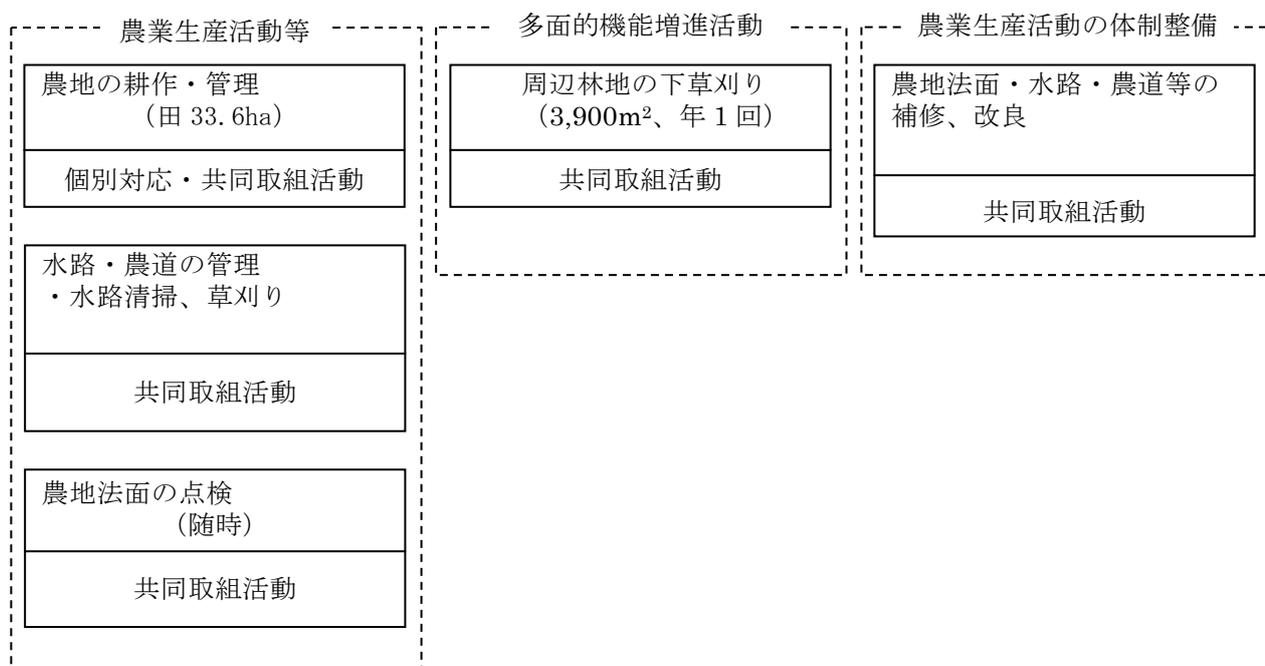
地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

○将来営農の継続が困難になる農用地が生じた場合には協定農業者で支え合う管理保全を行う。

[活動内容]



4. 今後の課題等

地域内で作られた良質な「はざ干し米」や新鮮な野菜等を農家民宿で提供するほか、農地を農業体験の実習の場として活用するなど、農地の保全と農家民宿の運営を一体化しながら取り組んできた。

高齢化が著しい地域だが、修学旅行生等への語り部や指導者の役割を高齢者が担うことで、都市農村交流を生き甲斐とする人も生まれている。また、この魅力的な地域が注目されて、農家民宿の所得向上も図られ、地域に若者が戻りつつある。

地域では、さらに多くの都市住民が訪れ、安定した収入が確保されることで若者が帰ってこられる環境を作っていきたいと考えている。そのためにも本制度を活用して、休耕地を復旧するなど、春蘭の里と調和した美しい里山景観を地域ぐるみで作っていくことにしている。

[これまでの主な効果]

- 棚田と農家民宿を活用した都市農村交流
- 地域ぐるみの里山景観づくり